

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501636
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	グループホームあおぞら
所在地	新居浜市南小松原町8-68
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○施設は四季折々のロケーションに恵まれ、利用者の心を和ませてくれる場所に位置し、散歩コースには近隣の人とのふれ合いの場があります。利用者は思いを大切に日々落ち着いてくらしがあります。</p> <p>○職員は生き生きと働き、自分の意見を出し合い、介護技術・知識が身につく、転職者がいないことは利用者・家族の安心につながっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>河川敷沿いに四季折々の自然を感じられるおだやかな環境にある事業所は、もうすぐ開設9年目を迎える。質の高いケアと真心、明るい笑顔で利用者や家族に愛される職員を目指し、利用者の尊厳ある暮らしが送れるよう、職員全員一丸となってケアに取り組んでいる。利用者のできることや輝きに目を向けることを大切にしており、職員との会話を楽しみながら、利用者の笑顔や笑い声があふれ、明るい雰囲気につながっている。利用者一人ひとりのペースでおだやかに生活を送っている背景には、人格や思いや希望を把握して、何が最適かを常に考えて支援する取り組みがあるからである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム あおぞら
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	前谷 満里子
評価完了日	H 26 年 1 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は職責を果す基本姿勢であり、資質の向上にむけて職員相互で研鑽し、ケアの実践に取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 開設時に管理者が事業所独自の理念を作成し、事業所内に掲示するほか、パンフレットにも記載している。また、名刺サイズに印刷した理念を職員全員に配布し携帯している。普段から管理者は、事業所の方針や社会人としての心構えなど基本姿勢を職員に伝えており、理念を職員全員で共有しながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会へ加入し、近隣の方とは挨拶や立ち話し等、気持ち良くお付き合い頂いております。入居者2名が施設と同じ町内の方で、家族様より歩いて行ける距離と喜んで頂いております。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、管理者は集会などに参加し地域の情報を得ている。事業所の建物1階部分は一般のアパートで、もちつきや敬老会などの行事開催時には入居者や近隣住民におもちや赤飯をおすそ分けするなど、積極的に地域と日常的に交流している。地域住民の高齢化が進んでいるが、地域とのつながりが途絶えないような取組みは、近隣のアパートから事業所に入居された利用者があるなど、事業所の存在は地域に浸透している。また、地域の民生委員やオカリナなどのボランティアの訪問があり、交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の理解に学生を対象としたワークキャンプ活動に参加しました。知的障害者の授産施設の商品を購入し、ささやかですが協力しています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、テーマの絞りこみに苦慮しているのが 現状ですが、介護相談員を経験された講師を招き、利用者 の声が多く聞け有意義な会をもちました。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、他施設の職員等 の参加を得て開催している。会議は家族会と同じ日に開催 することもあり家族の参加が多い。会議では、事業所の報 告を行うほか、外部から講師を招いた講演やもちつきなど の行事、演奏会と一緒に工夫をしており、誰もが参加 しやすいアットホームな雰囲気での会議を開催している。ま た、管理者は会議をどのような内容で開催していくか検討 している。</p>	<p>市担当者へ参加の案内ができず欠席が続いているた め、事前の日程調整をするなど参加してもらえよう な取組みを望みたい。また、地域住民に向けての講座 を開催するなど、地域住民の参加につながるような今 後の取組みを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市から、介護、研修、感染、防災についてリアルタイムの 情報提供を得ています。 地域包括支援センターより介護相談員の派遣等のサービ スに対し、意見を頂けると捉えています。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回介護相談員の訪問があり、利用者の話を傾聴 している。市職員に感染対策などの相談をしたり、市や地 域包括支援センターから研修案内があり積極的に参加する など、市と協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 常に身体拘束をしないケアを実践しています。 利用者は自由に自分の生活を実践できるよう一人一人に 合った支援に努め、規則は最小限にしています。</p> <p>(外部評価) 職員全員が身体拘束にあたる行為や弊害を理解し、利用者 へ身体拘束にあたる行為は行っていない。日中には玄関を 開放し、利用者は自由に出入りすることができる。職員は 利用者が孤独感を感じないよう、環境に馴染み穏やかに毎 日を過ごせるよう支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待のないケアに、常に取り組んでいる。いつも、誰が来られてもオープンである事、利用者の自由と公平が保てるよう支援しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している利用者がおられ、職員は制度を理解している。昨年、後見制度の利用者の選挙権が復権したので、選挙権を行使しました。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約内容について十分時間をかけて説明し、質問に答えています。昨年は契約の一部に変更があり、再度説明し同意を頂きました。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会、運営推進会議に参加し、意見を聞かせて頂く機会を持っている。又、利用者・家族と馴染みの関係が保てるようスタッフを受け持ち制とし、連絡やカンファレンスはその職員が担当する。	
			(外部評価) 家族との普段からの会話を大切にしており、意見や要望が言いやすい関係づくりをしている。親身になって家族の思いを傾聴し、一緒に考えることで家族との信頼関係を築いている。年3回家族会を開催し意見交換を行うほか、家族同士の交流や利用者と一緒に楽しい時間を過ごしてもらうように努めている。また、意見はほとんど出されないが、可能な限り対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月1回、定例の運営会議を開催し、夜勤を除く全スタッフ、介護部長で実施し、利用者のケアプランや行事計画を立案している。 職員は研修計画や事業所からの伝達を受けている。認知症について勉強会をし業務に反映している。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員全員が何でも言い合えて積極的に意見交換ができる体制づくりをしており、職員が生き活きと楽しく働けることをモットーとして信頼関係を構築している。年1回職員の自己評価があり、職員は日頃の業務を振り返る機会がある。また、月1回のナイトミーティングでは職員は意見を伝えることができるほか、伝達講習などを一緒に開催している。内部や外部研修体制が充実しており、職員の質や意欲の向上につながっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年1回、人事評価を実施している。 評価は自己評価、一次評価（管理者）、二次評価（事業所）で評価し、資質の向上や労働条件の改善に取り組んでいる。離職者が殆どない。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 本人の望む研修、事業所より本人のスキル向上に向けた研修の機会がある。 事業所には自慢話しの会（一般公開）や伝達講習、ナイトミーティング等、様々な学習会がある。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の実施する相互研修や研修会への参加へ参加している。地域密着型サービス協会へ加入している。当事業所の3か所のグループホーム、小規模多機能と月1回意見交換会をしている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に施設見学をして、利用者家族のニーズに合致しているか確認してもらう。管理者やケアマネジャーと話し合い、本人が安心出来るよう、情報提供を参考に質問にも丁寧に答えるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に、利用者・家族の方に施設見学をして頂き、要望や思いを話して頂き十分納得して入所して下さるよう信頼関係が築けるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の要望や家族の思いを聞き、早く馴染んで頂ける初期プランを立て家族と共に支援に努める。必要時は他のサービス利用にも対応出来ます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が家族に話すように、職員にも何でも言える信頼関係づくりをしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者・家族との絆を大切にし、面会、外出支援、又、家族支援に努め、情報の共有や相談に親切に対応しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者と他利用者、スタッフとの馴染みの関係を築き、本人の生活習慣、趣味が継続した落ち着いた生活が出来るよう支援しています。 (外部評価) 利用開始時に馴染みの場所や関係を利用者や家族から聞いて把握している。家族の協力を得てお墓参りや温泉などに出かけている利用者もいる。知人の面会時には、利用者と一緒にゆっくりと過ごしてもらえよう配慮している。利用者が以前通っていたデイサービスに友人を訪ねることもあり、今までの人間関係が途切れないような支援を行っている。また、事業所内で職員や利用者同士の新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士と一緒に作業したり、歌を唄ったりCDを聞く場所があり楽しく過ごしている。 利用者同士が助け合ったり、一緒に歩こやと誘い合って歩行練習等もしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後の家族の相談を受けたり、近況の報告があったり、関係が継続している方もおられます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の思いをよく聞き、意向・要望に沿った支援し、生きがいの持てる支援をする。 困難な場合は不安のないよう寄り添い、不自由な思いをさせない支援に努めています。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活歴や望む暮らしを聞き取りをしている。利用者がしたいことやできることに着眼し、利用者自身が輝ける毎日がすごせるように支援をしている。利用者との会話を大切にしており、日々の会話の中から利用者の思いや希望を聞くこともあり、新たな情報は記録、伝達して職員間で共有できるようにしている。思いの聞き取りが難しい利用者には、表情や動作で確認し家族からも情報を得ながら、利用者に最適なサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者・家族より在宅での暮らしを折にふれ聞く機会をもち、利用者の生活が豊かで活気ある生活が送れるようプランを作成し支援しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の能力に合わせ、本人のリズムに合った日々を過ごして頂き、心身の変化に気を配り、平穏な日常生活が送れるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者・家族の要望を聞き、カンファレンスを行い、利用者にあったケアプランを立て、介護計画を作成しています。	
			(外部評価) 利用者と家族の希望を聞いて担当職員が話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。6か月に1回見直しをしているが、普段から職員は介護計画の目標やサービス内容を意識して取り組んでいる。また、利用者の現状に合ったサービス内容になっているかを職員間で話し合い、変更があればその都度利用者や家族と話し合い意向を確認し、思いやでできることに目を向けた計画となるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 夜間、日中の様子を細かく記録し、申し送る事により、ケアプランの実施状況も把握し日々の生活に活かしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者が個々の考えや楽しみを見つけながら、やりたい事をして頂けるよう努力しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議を通して、行事・催し等を行い、家族、地域の方々と共に楽しんで頂けるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との関係を継続できるよう受診の支援や情報 提供し、健康維持に努めています。 利用者によっては、訪問往診（内科・歯科）を受けたり、 終末期は訪問看護を利用しています。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診することがで きる。月2回協力医の往診があり利用者の健康管理をして いる。また、看護師も配置されており、利用者の日頃の状 態を把握しながら、異変があった場合や緊急時には迅速に 適切な対応をしている。医師との情報交換や家族への連絡 など細やかにいき、利用者は安心して過ごすことができ る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職は看護師と情報を共有し、異常の早期発見や健康維 持のため、運動や保持、市販薬の支援をしている。異常時 は、随時対応できるよう協働出来ています。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際には、訪問し関係が途切れることがな いようにする。 通院時は、家族と共に指導をうけ、健康管理の支援が出来 るよう努めています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時より重度化や終末支援に沿って話し合いをし、利用 者・家族の要望に沿った支援が出来るかを確認しておく。 終末期支援について、事業所で出来ること、家族の役割を 共に考え、医療・看護と連携し支援に取り組んでいます。	
			(外部評価) 今までに5人の看取り支援を経験している。利用者が慣れ 親しんだ場所でどう過ごしたいか話し合いを重ね、利用者 や家族の希望を大切にして、最期の1日まで自分らしく過 ごせるように医師や看護師、家族と協力体制をとりながら 支援している。また、利用者や看取りに関わった全員が、 納得して満足できる終末期を迎えられるような取組みをし ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応については、人工呼吸、AED等消防署を招いて研修したり、事業所の実施する学習会で実践し、知識・技術が備わっている。 施設においては、マニュアル作成や誤嚥の防止、ヒートショック、感染時対策等、予防や実践に対応しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策に備え、計画を立て訓練を実施している。地域の防災対策の講座に出席し、施設のことを話し協力を依頼したり、災害に備えて、水や食料品、寝具を備蓄している。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、夜間などを想定した避難訓練を実施している。事業所は2階にあるが隣接するアパートとつながっており、火災発生時には隣の建物に避難することもできる。地域防災を考える話し合いに参加して情報交換や対策を話し合っている。また、地域の民生委員に災害時の協力を依頼するなど、地域との協力体制を築いている。事業所の近くに住んでいる職員もあり、災害時にはすぐに駆けつけられる体制となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の個人情報に関する話は、本人とのみ話し合う場所を確保したり、排泄時の声かけも1対1で行いプライドを傷つけない支援をしています。 (外部評価) 排泄時や入浴時は特に声かけや対応に配慮し、利用者の羞恥心やプライドを傷つけないようにしている。2つの居室毎に1つのトイレと洗面台を使用できるようになっているため、なるべく同性の利用者同士が使用できるように配慮をしている。また、利用者一人ひとりの最適な距離感を把握し寄り添いながら、利用者の自由で尊厳ある暮らしを支援している。職員は方言や親しみある声かけで利用者との会話が弾んでおり、親しみの中にも利用者を敬う気持ちが感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の趣味が生かせる支援、季節ごとの外出、買い物、外食等、少人数でゆっくり出来るよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに合わせ、どのようにされたいか希望に沿って支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は定期的に同じ美容師さんに来て頂いています。 服装はその人に合ったバランスの良い物を着用するよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食卓を拭いて頂いたり、海老の殻むき、もやしの根切りなど出来る範囲内でお手伝いをお願いし、献立の希望を聞き、食事を楽しみにしてもらえるようにしている。 (外部評価) だしは昆布と鰹節で取り、冷凍食品は使用せず丁寧に調理した身体に優しい食事を提供している。食材は業者に届けてもらい、1日おきに調理専属の職員が交代で調理している。利用者は調理の下ごしらえや後片付けなどできることを職員と一緒に手伝っている。食事にはベランダの菜園で収穫した旬の野菜を取り入れるなど、利用者が季節を感じられるよう工夫をしている。誕生日や正月などには、利用者の希望を聞いて特別メニューを提供し、ノンアルコールビールで乾杯するなど楽しみになる工夫をし、利用者にも喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事の摂取量を記録し、水分補給は、牛乳、お茶、時々紅茶、コーヒーで対応している。 困難な方にはトロミをつけたり、補助食を使用し、栄養バランス、食べる量にも気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、本人の力を観察し応じたケアをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人の排泄パターンを知り、(予測し)声かけを促し、また、見守りにも努めています。排尿の少ない時等、水分補給の声かけも行って様子観察に努めています。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンやその日の状況を確認しながら、トイレで排泄できるように支援をしている。なるべく布パンツを使用できるように残存機能を活かしながら、利用者に排泄が失敗しないよう自信をもってもらうような声かけをしている。オムツやパットを使用していた利用者が、布パンツでトイレでスムーズな排泄ができるようになったケースもあり、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便コントロール、最終排便を確認し、服薬又は一人一人の体調に合わせ、レクリエーション等を促し、体操、歩行等運動の働きかけを行っている。また、排泄への声かけにも取り組んで努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 湯船に入って頂き、体を癒して頂けるよう温度調節をして、ゆったりとした時間で入浴支援に努めています。また、入浴拒否等ある言動の場合は無理強いせず、更衣、清拭等個人に合った対応を促しています。	
			(外部評価) 利用者は週2回を基本として入浴することができる。利用者の状態に応じて、シャワー浴や足浴を行ったり、職員2名体制で介助するなど、安心安全に入浴ができるよう支援している。家族の希望で入浴介助を手伝っている利用者もいる。洗髪ができない利用者にはドライシャンプーをしたり、入浴後には保湿クリームを塗りながらマッサージを行うなど、入浴時間が楽しく心地よい時間になるように努めている。また、脱衣所にはヒーターを置いて温度調節にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の体調に合わせて、離着床を促し、休息して頂いています。 また、血流緩和や心のひと時をくつろげるようハンドマッサージ等を促し、安楽に眠れるよう支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を読み、薬について理解している。 用法・用唇も理解し、漢方薬等については溶解することもあるが適切に服薬支援が出来ている。 副作用については看察をし早期発見に努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各人の希望で役割を持っている方がいます。(テーブル拭き、自室の掃除、新聞の整理等) 日光浴や利用者同士がCDを聴きくつろいでいます。 誕生日、季節毎の行事を大切に喜んで頂いています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のいい日は散歩やドライブに出かけています。 外食は少ないのですが、喫茶店やショッピングに出かけています。 家族と一緒に外食、ショッピング、温泉、墓参りに行っています。 パチンコに行きたいと、1人の利用者の10年振りの思いが実現しました。 (外部評価) 高齢化や重度化が進み職員が2人体制で外出支援をする必要があり、利用者一人ひとりの希望に応じることは難しくなっているが、日頃から外出できるよう支援している。季節に応じて、初詣や花見など利用者の喜ばれる場所に出かけている。事業所の周辺には桜並木があり、散歩や外気浴をして季節を感じながら気分転換をすることができる。家族の協力を得て定期的に外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理の出来る方は本人が持っています。 使用する時は家族か職員が同行しています。 利用者の所持金は、5,000円程度にお願いしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を3名が所持されています。 固定電話は自由に使用出来ます。プライバシーの関係で子機を使用しています。 家族から年賀状が多いです。利用者の差し出しは無いです。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関のプランターには季節の花を設置し、2階にはプランターで食事に添える野菜やハーブを育てています。又、夏場はグリーンカーテンを育て、朝顔やゴーヤを観賞しています。 日当たりの良い長い廊下は、危険物もなく歩行練習に最適です。</p> <p>(外部評価) 陽当たりの良い廊下には豪華なお雛様が飾られており、利用者に喜ばれている。ステンドグラスが美しい飾り窓からは川沿いの四季折々の風景を楽しむことができる。また、夜には工場などの素晴らしい夜景を眺めることができる。ベランダには夏はゴーヤでグリーンカーテンを作ったり、季節の野菜を育てて収穫するなど、事業所内においても、利用者に季節を感じてもらうことを大切にしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有室には大小のテーブルがあり、テレビを観たり、食事や読書等、一人ひとりくつろいで過ごしています。 廊下のベランダの片隅にCDを置き、音楽を聞いたり日光浴を楽しむ場所があります。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の好みに合わせた家具やテレビを配置したり、カレンダーや時計も飾っています。タンスの中には自分好みの服があり、御自分で服を選ばれます。 エアコンや照明も自由に使用出来、一晩中電気を点けたり、早く目が覚めた方はテレビも自由です。他者に迷惑をかけないなら殆どのことはOKです。</p> <p>(外部評価) 広さの違う2つの居室があり、各居室トイレや洗面台が使用しやすい作りとなっている。居室は利用者が過ごしやすいよう生活習慣に合わせた個性のある空間となっており、落ち着いて過ごすことができるように配慮している。ベッドは事業所のものを使用しているが、馴染みの家具や雑貨類、家族の写真など利用者の好みのものを持ち込んで、心地良い居室になるように工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 共有室には、雑誌、新聞、ゲーム等があります。カレンダーの日めくりや新聞の片付けは利用者が自主的にされます。職員は見守りや環境を整備し、事故がないよう支援しています。</p>	